

平成 27 年度
大阪歯科学会大会
大阪歯科大学同窓会学術研修会

「基礎医学・歯学研究の愉しみ」

平成 27 年 11 月 21 日(土)14:00～17:00

大阪歯科大学創立 100 周年記念館

(大阪歯科大学天満橋学舎)

540-0008 大阪府中央区大手前 1-5-17

開会 大阪歯科大学学長・理事長 川添堯彬
大阪歯科大学同窓会会長 生駒 等

講演 高橋直之先生
松本歯科大学総合歯科医学研究所所長
第 33 回(2015 年度)日本骨代謝学会会長

西原達次先生
九州歯科大学学長・理事長

今年度の合同大会は、若手の基礎医学・歯学研究者やこれから研究に従事しようとする学部学生・大学院生の研究マインドの向上と、これから拓かれるであろう研究分野や将来を見据えた歯科医学・歯科医療(臨床現場)の発展に寄与するために、基礎医学・歯学研究の最前線で活躍しているアクティブ・シニアの先生をお招きし、「自身が携わった研究の流れや成果、今後の方向性、臨床への応用」をご教示していただくとともに、「医学・歯学分野の基礎研究や研究生活の愉しみ」について、豊富な経験をもとにご講演いただきます。

(大阪歯科学会会長 池尾 隆)

基礎医学・歯学研究の楽しみ

		司会	清水谷公成
14:00	開会のことば	大阪歯科学会会長	池尾 隆
	あいさつ	大阪歯科大学理事長・学長 大阪歯科大学同窓会会長	川添堯彬 生駒 等
14:20	破骨細胞研究から学んできたこと	松本歯科大学総合歯科医学研究所 所長 松本歯科大学大学院歯学独立研究科 科長	高橋直之 先生
15:20	基礎研究から臨床応用へ —可能性への挑戦—	九州歯科大学 理事長・学長	西原達次 先生
16:20	鼎談	高橋直之先生 西原達次先生 池尾 隆	
16:50	閉会	大阪歯科大学同窓会学術部常務理事	佐古好正

平成 27 年度大阪歯科学会大会・大阪歯科大学同窓会学術研修会合同大会は、若手の基礎医学・歯学研究者やこれから研究に従事しようとする学部学生・大学院生の研究マインドの向上と、これから拓かれるであろう研究分野や将来を見据えた歯科医学・歯科医療（臨床現場）の発展に寄与するために、基礎医学・歯学研究の最前線で活躍しているアクティブ・シニアの先生をお招きし、「自身が携わった研究の流れや成果、今後の方向性、臨床への応用」をご教示していただくとともに、「医学・歯学分野の基礎研究や研究生活の楽しみ」について、豊富な経験をもとにご講演いただきます。また、講演後には鼎談を予定し、研究現場の厳しい現状や自身の仮説を証明できたときの喜びなどについてお話しいただくとともに、会場の参加者ともダイアログを行いたいと思います。

この合同大会が、大阪歯科大学の発展に、さらには歯科医学・歯科医療の発展に寄与することを祈念いたします。
(大阪歯科学会会長 池尾 隆)

破骨細胞研究から学んできたこと

松本歯科大学・総合歯科医学研究所
硬組織疾患制御再建学部門（硬組織部門）
教授 高橋 直之

【略歴】

- 1978 岩手大学大学院農学研究科修士課程修了（農芸化学）
- 1978 昭和大学歯学部 助手（口腔生化学教室）
- 1985 Texas 大学 San Antonio 校へ Postdoctoral Fellow として留学
- 1986 昭和大学歯学部 講師（口腔生化学教室）
- 1992 昭和大学歯学部 助教授（口腔生化学教室）
- 2001 松本歯科大学総合歯科医学研究所 教授
- 2010~ 松本歯科大学総合歯科医学研究所長、大学院歯学独立研究科長

【所属学会】

歯科基礎医学会、日本骨代謝学会、日本生化学会、米国骨代謝学会など

【学術誌関係】

- Journal Bone and Mineral Metabolism (Associate Editor)
- Bone (Editorial Board)
- Odontology (Associate Editor)
- The Bone (編集委員)
- 骨粗鬆症治療 (編集幹事)

私は、1979年に昭和大学歯学部生化学教室（当時 須田立雄 教授）の助手に採用されて以来、歯学部の教育と研究に携わってきた。当初はビタミン D の代謝と作用機構の研究に従事した。1984年に東京医科歯科大学より学位を授与され、留学が許可された。1985年に、私は「悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症」惹起因子の研究に従事することを希望して、テキサス大学サンアントニオ校の Gregory R. Mundy 教授の教室に留学した。そこで G. David Roodman 教授と出会い、偶然にも破骨細胞の研究に入った。2001年に昭和大学から松本歯科大学に赴任したが、現在も松本歯科大学で破骨細胞研究を継続している。破骨細胞研究をとおして、多くの大学院生や若手研究者と研究活動を共有し、様々な事を学んできた。年を重ねることで、解ることもあるということも実感できるようになった。この講演会では、私の研究の歴史を紹介しながら、研究に対する私の考え方をお話したいと思う。

基礎研究から臨床応用へ ―可能性への挑戦―

九州歯科大学 理事長・学長
歯学部 感染分子生物学分野
教授 西原 達次

【略歴】

- 1981 九州歯科大学歯学部卒業
- 1986 東京医科歯科大学歯学部大学院歯学研究科修了（歯学博士）
- 1986 国立予防衛生研究所 歯科衛生部形態学室 研究官
- 1990 米国テキサス大学在外研修（2年間）
- 1993 国立予防衛生研究所 口腔科学部 歯周病室長（現在の国立感染症研究所）
- 1999 九州歯科大学 教授
- 2001 九州歯科大学 学生部長
- 2005 九州歯科大学 大学院歯学研究科長
- 2006 公立大学法人九州歯科大学 理事・歯学部長
- 2012 公立大学法人九州歯科大学 理事長・学長

【学会活動】

日本歯科医学教育学会 副理事長，歯科基礎医学会 常任理事，日本歯周病学会 理事，
日本骨代謝学会 評議員，日本炎症・再生学会 評議員，日本細菌学会 評議員
IADR, ASM, ASBMR

東京医科歯科大学大学院在籍中に，国立予防衛生研究所で歯周病細菌の基礎研究を開始し，これまで，歯周病の発症メカニズムの解析を軸に研究を展開してきた。現在では，歯周炎が歯周ポケット中に存在するグラム陰性嫌気性菌による感染症であり，歯周組織における免疫応答・炎症反応により，さまざまな臨床症状が引き起こされることは周知が認めるところである。そこに至る過程で，多くの基礎研究，トランスレーショナル研究，臨床研究が展開され，歯周病発症に係る分子が同定されてきた。さらに，現在では，歯周医学という形で，歯周病と全身疾患の因果関係が分子レベルで解析され，多くの研究成果が報告されるようになった。私自身，東京から北九州に研究のベースを移し，近年，医歯工連携協働作業というかたちでの教育・研究を推進している。そのような背景を踏まえ，今回の講演会では，多領域との連携により歯周病診断機器の開発プロジェクトについてもお話しできればと思っている。